

## 箱根町まち・ひと・しごと創生有識者会議委員委嘱及び 第1回会議 会議録

1. 日 時 平成27年7月31日（金曜日）14:00～15:45
2. 場 所 箱根町役場分庁舎4階 第5会議室
3. 出席者【委員】  
鈴木達之、柳下智恵子、高橋啓介、田中啓、佐々井力二郎、  
石田尚久、三浦健司、大塚仁司、鈴木恵美、久郷則明（途中出席）  
（欠席）工藤徳行、千葉哲也  
【箱根町】  
町長、吉田企画観光部長、栢沼企画課長、村山企画課副課長、  
齋藤企画調整係長、鈴木主任主事  
【人口ビジョン・総合戦略策定支援委託業者】  
株式会社ぎょうせい 矢野主任研究員

### 4. 内 容

（委員委嘱式 14:00～）

出席委員9名に対して、町長から委嘱状を交付した。

（町長あいさつ）

#### (1) 開会

企画課長の進行で、町側職員紹介、委員自己紹介、㈱ぎょうせい  
研究員紹介

（町長退席）

#### (2) 議題

ア 座長の選出について

#### 企画課長

会議に先立ち、資料の確認をさせていただきます。資料については事前に送付させていただいておりますが、会議次第のほか資料1から資料5までと、本日卓上に配布させていただいている資料6と参考資料です。よろしいでしょうか。

それでは、まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催いたします。議事の進行につきましては、資料2の本会議の設置要綱により座長が進行するということになっておりますが、座長選出までの間につきましては、私のほうで進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

議題（1）「座長の選出について」でございます。設置要綱第4条第1項で「座長は、委員の互選により選任する。」

	<p>となっております。互選の方法などについてご発言をお願いします。</p> <p>無いようですので事務局からご提案をさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
委員 企画課長	<p>お願いします。</p> <p>皆さま、初顔合わせでもありますので、事務局といたしましては、大塚仁司委員さんに座長をお願いできればと考えていたところではありますがいかがでしょうか。</p>
委員 企画課長	<p>異議なし</p> <p>ありがとうございます。それでは、大塚委員さんに座長をお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。</p>
座長	<p>それでは座長よりごあいさつをいただきたいと存じます。</p> <p>あらためまして大塚と申します。まだ着任して日も浅い状況での座長ということで恐縮しておりますが、前任においても他自治体の委員、また、先週も他自治体の同様の会議で委員もやっておりますことから、他の自治体の状況も少しは知っておりますので、箱根町の戦略策定にあたり有意義な情報をお知らせできればとも思います。どうぞよろしくお願い致します。</p>
企画課長 座長	<p>それではここからの議事進行は座長にお願いします。</p> <p>それでは最初に有識者会議設置要綱第4条第3項に基づきまして、座長に事故があるとき又は座長がかけたときに、座長の職務を代理する委員の指名を行いたいと思います。座長の職務代理につきましては、同項により座長が指名する委員となっております。私といたしましては、本日は欠席ではありますが、工藤徳行委員さんをお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。</p>
委員 座長 副課長	<p>異議なし。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>工藤委員さんは、本日は欠席ではございますが、事前に職務代理等の就任につきましては事前に承諾をいただいております旨を事務局から報告させていただきます。</p>
座長	<p>それでは職務代理につきましては、工藤委員さんをお願い致します。</p>
イ 座長	<p>まち・ひと・しごと創生有識者会議の役割及び任期について</p> <p>それでは議題（２）「箱根町まち・ひと・しごと創生有識</p>

者会議の役割及び任期について」、事務局から説明をお願いします。

**【事務局から資料2説明】**

副課長

資料2「箱根町まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱」をお願いします。

最初に役割についてです。第1条をお願いします。

最初に、“まち・ひと・しごと創生”とは何を行うものかということではありますが、町長からの挨拶にもありましたとおり、人口減少問題の克服、経済成長力の確保を、地域の特性を活かして図っていくにあたり、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示する「人口ビジョン」と、それを具体的に進めるための「総合戦略」、この2つの計画を、今年度中に策定することが求められております。

この人口ビジョン、総合戦略についての詳細につきましては後程説明をさせていただきますが、人口ビジョン・総合戦略の策定、効果検証を行うにあたり、幅広い見地から助言、提言等を委員の皆さんからいただくことを、この有識者会議の目的としております。また、第2条では所掌事務として、人口ビジョン、総合戦略の策定及びまち・ひと・しごと創生に関して意見を述べ、必要な助言提言を行うことを定めております。なお、本有識者会議は要綱に基づき設置されているものでありますが、総合戦略の策定にあたり、民間の参画と推進組織の設置が国から求められていることから設置しているという経緯があり、ほぼすべての自治体で同様の組織を立ち上げている状況であります。

続きまして、任期についてです。第3条をお願いします。組織の規定になり、第3項において、委員の任期を来年の3月末日までとしているものです。これは、現在の委員さんにおいて人口ビジョン、総合戦略の策定に係る助言提言をいただき、以降は改めて有識者会議を組織し、効果検証作業等を進めていく予定としております。

座長

特に質疑はよろしいでしょうか。

ウ 会議の公開について

座長

それでは議題(3)「会議の公開について」、事務局から説明をお願いします。

**【事務局から資料3説明】**

副課長

資料3「箱根町附属機関等の会議の公開に関する要綱」をお願いします。この要綱は、町政への町民参画の促進と公正で透明な開かれた町政の実現を図るために設けられているものであり、町の附属機関等の会議において適用されるものであります。この会議は要綱に基づき有識者会議という名称で設置されているものであります。別に定める、「附属機関等の設置及び運営に関する要綱」による「附属機関等」として位置付けられます。このため、最終的な公開、非公開の判断は、要綱の第3条に規定のとおり、「第2条の基準に基づき、附属機関の長である座長が会議に諮って決定する。」こととなりますが、事務局といたしましては、本日の会議より公開とすることをお願いしたいと考えております。以降の会議は、事前の会議開催の告知、傍聴、会議録の公表等を行いたいと考えております。他自治体も同様な扱いの例が多いという状況です。なお、議事録につきましては、町ホームページでの公開を予定し、発言者は役職名で記載します。ですので、座長は「座長」として、その他の委員さんは、「委員」として表示します。

座長

皆さんよろしいでしょうか。それでは、本会議は原則公開とし、傍聴並びに会議録を公開するということで決定しました。よろしくをお願いします。

エ 地方創生及び箱根町人口ビジョン・総合戦略策定方針等について

座長

それでは議題(4)「地方創生及び箱根町人口ビジョン・総合戦略策定方針等について」、事務局から説明をお願いします。

副課長

最初に、先ほど申しましたとおり、人口ビジョン、総合戦略とはどんなものかということ、委員の皆さまに研修形式でぎょうせい研究員よりご説明申し上げ、その後に、町の策定方針等の説明をさせていただきます。

【株式会社ぎょうせいから資料6により、人口ビジョン総合戦略について、本町の人口特性等、人口ビジョンの骨格的な考え方について説明】

【事務局から資料5説明】

副課長

1ページ、策定の趣旨です。本町の最重要課題である人口

減少の克服、「消滅可能性都市」からの脱却を目指し、人口、地域経済、地域社会の課題に一体的に取り組むために人口ビジョン、総合戦略を策定し、箱根町の将来展望を明るく活気あふれたものにすることを目指すこととしています。

ページ下の表は、国の総合戦略の全体像になります。

2ページをお願いします。「人口ビジョンと総合戦略の基本フレーム」を示したものになります。

地方創生の取り組みにあたりましては、まずは市町村の人口ビジョンの策定を行い、その結果を基に総合戦略を策定するという段取りになります。人口ビジョンとは、人口の現状分析や将来推計を行った上で、平成72年（2060年）までの長期にわたる将来展望を行うものであり、お示しのとおり、将来の人口推計とのギャップを埋める方策として、総合戦略を立てていくこととなります。総合戦略につきましては、まちづくり、ひとづくり、しごとづくりという基本目標とKPIを掲げ、その目標、KPIを達成するための具体的施策、事業を掲載していくというイメージになります。

3ページをお願いします。国においては、まち・ひと・しごとの創生に関する政策5原則が掲げられており、自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視の原則に基づいて人口ビジョンや総合戦略を策定していくこととされています。

次に、「策定方法等」です。最初に、「PDCAサイクルの仕組み」です。今回の「総合戦略」策定にあたっては、具体的な数値目標をたて、それが達成されているかを検証することが求められています。

4ページ、「多様な主体を巻き込んだ策定過程」です。

戦略策定にあたりましては、町民を始め、産業界や金融機関、メディア等、幅広い層の参画が求められています。これは、本町に関係する多くの人々に、まち・ひと・しごと創生の必要性を認識、共有してもらい、民間活力による地域経済の好循環を最終的に目指すものとされていることによるものであり、現在策定中の第6次総合計画とも十分に連携し、進めてまいります。

次に、「策定体制」です。本日開催しております有識者会議、会部組織になります。庁内の組織については、現在策定を進めております、第6次総合計画策定に関する内部組織を、そのまま活用して進めていきます。

5 ページ、「作業スケジュール」です。人口ビジョン、総合戦略につきましては、年度内の策定が求められておりますが、次年度の予算編成なども考慮し、人口ビジョンについては8月、総合戦略については10月を目途に案としてとりまとめ、年内の完成を目標に策定を進めていきます。

本有識者会議につきましては、次回は9月上旬から中旬の予定で、全体として3回から4回の開催を予定しています。また、戦略策定にかかる町民参画につきましては、有識者会議への参加をお願いするほか、10月にはまちづくりフォーラムの開催ということで、地方創生にかかる町の取り組みを説明させていただくとともに、フリーアナウンサーである堀尾正明さまに講演をいただく予定です。また、ホームページによる情報提供やパブリックコメントの実施などを予定しております。

6 ページ以降は「人口ビジョン、総合戦略の構成(案)」です。7 ページをお願いします。第2章に、現段階での人口ビジョンを達成するための基本目標として、まちづくりの基本目標：「若者に選ばれるまちづくり」、ひとづくりの基本目標：「地域内外に箱根ファンをつくる」、「結婚から子育ての切れ目ない支援」、しごとづくりの基本目標：「魅力ある地域資源を活かした観光振興」などを掲げております。

第4章の、基本目標別施策として、「若者に選ばれるまちづくり」として、“職住近接型のまちづくり”や“空き家等の活用”などを、「地域内外に箱根ファンをつくる」では、“シティプロモーション”や“箱根暮らしのお試し体験”など、「結婚から子育ての切れ目ない支援」では、“人を育てる園小中の一貫教育”や“出会い、交流の場の提供”など、「魅力ある地域資源を活かした観光振興」では、“箱根ジオパークを核とした広域連携、活性化”や“伝統産業の担い手の育成”などが、考えられるものとして、現段階における案として記載しております。

また、本日は、参考資料として昨年10月より庁内の若手職員により研究を行ってまいりました「定住化促進プロジェクトチーム」の研究発表会の概要をお配りさせていただいております。この発表会は、今週の月曜日に職員を対象に開催したものでありますが、この概要をパワーポイントファイルでお配りさせていただきました。取りまとめにあたりましては、本日ご出席いただいている鈴木恵美委員さんにも、はこ

ねのもり女子大学との意見交換会としてご参加いただきました。総合戦略の策定に際しましては活用できる施策も多くありますことから、これらも参考に進めていく予定となっております。

最後に、この地方創生の取り組みの大きな柱の一つに、総合戦略を策定した自治体に対しては、平成28年度に創設予定の「新型交付金」が交付されることにあります。

この「新型交付金」は、現時点では交付要綱等、概要は示されておりませんが、新たな取り組みに対しましては、この新型交付金の活用を視野に検討していきたいとかがえております。

#### 【質疑】

座長  
委員

皆さんの方から質問等ありましたらお願いします。

総合計画との関係もあり人口がどうなるかについては非常に重要であり、人口ビジョンについて関心をもっています。そこで人口について何点かお伺いをしたいのですが、社人研の推計がありますが、これはどのような前提を置いて推計したものでしょうか。出生率とか。要するに社人研の人口推計というのは固い推計なのか、悲観的な推計なのかという感触を得たいと思います。また、出生率ですが、説明で夫婦の間で何人かという説明でしたが、私の理解では女性が一生に産む人数なので、未婚の方も入っての数字だと思えます。そうすると、出生率2.1というのは結婚していない人も含むので、結婚している女性が3人4人産まないといけない数字になると思えます。そのあたりの定義の確認をしたいと思います。

事務局

推計そのものはこれまでの出生率をある程度固定して、転入転出については同じく移動率をかけ込んだ推計ということになります。産む人数についてはご質問のとおりで、分かりやすいように説明させていただいたが、子どもを産む年齢層を15から49歳と仮定し、その層が産む人数ということになります。

委員

今、未婚率が上がっているなので、そのあたりは正確にお願いしたいと思います。

座長

確かに人口に関する問題としては、職業、仕事の問題、さまざまあるのですが、皆さん今、話を聞いていられて、そういう傾向にあるのだろうかというイメージはあると思うの

- ですが、具体的にどうなってしまうのかということもあると思います。今の話を踏まえて、どう知恵を出し合いながらこれから策定していこうかというご意見、感想でも構いませんので、せっかくの機会ですので、ご発言をお願いします。
- 委 員** 我々の仲間の感覚としてですが、我々の世代で、箱根でバリバリやっている人は箱根に住んでいない。なぜ箱根に住まないのかと考えると、子どもを育てる環境もあまりない、買い物や病院はどうするのかという、生活関連の施設というのが圧倒的に不足していることが、実際問題として生産世代がそこで生活しようという気にならないのではないのかということが一つ言えると思います。かといって、外から見て箱根は魅力がないのかというと、魅力はある。特に観光資源という魅力はあるが、生活ということを考えると、クエスチョンが付いてしまう。そのギャップをどう埋めるかが課題。もう一つは大涌谷の問題に代表される防災問題について入れていくべき問題なのかなと思います。
- 座 長** この生活関連については、町の方ではどうお考えでしょうか。方向性とかこれとは別にあるのでしょうか。教育、子育てとか買い物とか医療機関の問題とか、どうしていこうという具体的な将来像はあるのでしょうか。
- 企画課長** そのあたりは、町の総合計画がありますが、こちら平成29年度からの新たな計画を、ちょうど今策定作業に着手しているところですので、多方面の分野の考え方につきましては、そちらの方に委ねて検討させていただくということで考えております。今委員が言われたお話につきましては、いろいろな調査やヒアリングをして把握している部分でありますので、そのあたりも踏まえて総合計画の方で対応していきたい部分であると考えています。
- 座 長** 他にいかがでしょうか。
- 委 員** 私も同意見であり、箱根地区は医者が十分でなく、学校も統合されてバスで通わなければならない状況で、孫たちにも不自由させてしまった。実際に生活すると買い物も車で行かなければならないし、病院も元箱根に一軒だけあるが、月水金土だけで不自由。小学生は通学バスがあるが、中学生からは路線バスで、高校生になるともっと親の負担が多くなる。親が協力しなければ十分な教育も受けさせることができない現状がある。町内すべてが同じ状況ではないと思うが、大部分は同じような状況ではないでしょうか。



座長  
委員  
座長  
委員

仙石原の方は人口も多いし、お店もたくさんある。宮城野も同じだか、普通に生活できる状況下にあると思うが、少し離れたところになると、これから先、親子そろって住みたいという状況にないことが残念だと思っています。このあたりをもう少し住みたい町にできたら、来てくれる人も出てくるのではないかと思います。

もう一つは独身者が多いです。結婚適齢期の独身者が多い。出会いの場が無いです。残念でもったいないと思います。結ばれる機会が持てたら、箱根に住んでいる人同士が一緒になったら少しでも人口は増えるのではないかと思います。

独身者がいるということは、可能性があるということでしょうから。婚活とかでしょうかね。

はい。出会いです。

その他、いかがでしょうか。

私は仙石原に住んでいるので比較的快適に生活できています。これまで住んでいたところはもっと不便なところが多く、都会的に暮らしていると思います。気になる点としては、箱根町で働く、仙石原で働く多くの方が小田原や御殿場から通っているということで、定住化の観点からすると、そういった方に住んでもらえれば、町は活性化すると思います。一方で小田原や御殿場に住む方が箱根で働き、箱根にお金を落としてもらえれば、それはそれで困らないという気も若干しています。人口が減ったときに、どのくらい減るとどのよう困るのかというあたりについてはもう少し突っ込んで考えていただければと思います。

座長  
委員

同じ箱根の中では、地域によって生活のしやすさしにくさが結構あるということですよ。悪いところをどうするかというと結構大変ですが、暮らしやすいところはなぜ暮らしやすいのかを考えさせていただいて設定していくという方法もあろうかと思います。

神奈川県全体の話をしていただくと、神奈川県全体では人口は全国で第2位ということで、2018年までは神奈川全体としては、人口は伸びるであろうと、そのピークは約913万人で、その後、横浜川崎を含めて減少していく見込みです。県の方では、こういった地方創生会議、民間の方も入った有識者の会議を6月4日に第1回目に開催され、第2回目が8月5日に開催します。その場で、県が、人口が減っていく、

おそらく社人研の推計がベースとなると思いますが、それに県全体がどの程度上乗せするのかという議論になると思います。その時に、県の中で、県西地域、横須賀三浦が先行して人口減少が進んでいるので、上乗せ分を少しでも社会増、自然増をこの地域にどの程度もって来るとというのが最大の焦点になってくるのかと思いますが、県西地域2市8町で取り合っても仕方ないと思う。箱根ですと、観光を生かしていく、ある程度広域的な仕組みというのを考えていかないと、資料を拝見するといろんなことを町単独でやろうということが見えているが、もう少し広域的な取り組みを考えていかないと厳しいのかなと思います。

座長

国の施策として上から降りてきて、国としては東京圏、神奈川県でいうと横浜、川崎から出したいのですよね、人を。そして少なくなっている三浦、県西の方にできれば移ってもらいたいという思惑があって今回の戦略というのが出てきているのですよね。私が参加している中井町でも寒川町でも、同じ地域で人を取り合っても仕方ないよねという話が出ていました。ただ、そうは言っても、その町の独自色をどう出していくというのが、これから皆さんのお知恵お借りしながら、頭に置いていかなければいけないことだと思います。

委員

私は箱根ということだけでなく、一般的なことでコメント申し上げたいのですが、先ほどの資料6、2枚目のスライドですが、例えばこの人口問題に対する基本認識というところの真ん中に、人口減少が続くと、働き手の減少により一人あたりの国民所得の低下をまねくとありますが、これはそうなるかもしれませんが、そうなるとは限らない。働き手が減ると、日本全体の国民所得が低下することは100%確実です。ところが、一人あたりの所得が減るかどうかは、今後どうするかによって変えられます。ですので、私は、ここで、国民の認識の共有を目指すとありますが、全く共有できません。おそらく人口が減ることが問題だというような認識を変えていく必要があるのではないかと思います。確かに大変です、これから。何が大変かということ、人口4千万人になることが大変なのではなく、1万2千万人いる人口が、4千万人になる過程が大変です。ですから将来的には必ず減るので、減るということを前提とした町の在り方を早めに考えていく必要があると思います。ただ、私は何もしなくていいと言っているのではなく、先程来でているように、やはり箱根を住み

やすいあるいは暮らしやすい、働きやすい街にしていくというのは不可欠だと思うのですが、非現実的な人口の目標を立ててそれを目指すというのはお金と時間の無駄だと思います。そのあたりは私個人が長年考えてきたところで、皆さんとは考えが違えるかもしれませんが、あえて申し上げさせていただきます。

座長

一つの考え方としてある話ですよ。減ってしまうものは減ってしまうので、減ってしまうことに対して、いくら頑張っても増えないのであればどうしようかということで、その辺のこともこの人口問題の考え方の中であると思います。

委員

私も3年間箱根で仕事させていただいて、人口問題というのは痛切に感じている、特に高齢化、一人暮らしの高齢者にお嬢様や息子さんのことを伺うと、東京に住んだり、横浜に行ったりということで、出て行ってしまったと聞きます。これから考えるにあたっては、箱根町というのは、他の市区町村と大きく違うことは、観光地であるということ、それもただの観光地ではなく、名だたる観光地であるということ。現在は大涌谷の関係で観光客は減ってはいますが、観光を引き金として問題をクリアできるのではないかというふうにも思えます。問題解決には決め手となることは、すぐには出てこない部分もありますが、皆さんで考えながら行けば、きっといい方法が出てくると思いますので、そのような観点からもぜひ考えていきたいと思えます。

座長

確かに箱根ブランドというのは強力ですよ。以前営業関係で横須賀三浦半島を担当していましたが、観光資源は少ないですよ。鎌倉はあるのですが、鎌倉とは全然違うところで、同じ神奈川県でも箱根のようなブランド力をどうやってつけていこうかということを考えている地域です。確かに私のイメージ的には、日本で観光地というと、東京、京都の次に箱根が来るのではかというくらいブランド力はあると思いますので、これは他の地域にない強力な部分だと思えますので、その辺も含めて考えていければと思います。

委員

箱根という枠組みで考えれば、当然、これからも観光業というものを主要産業に掲げ、いかに多くの観光客に来ていただけるかというのが課題であり、これは業種を問わず、全体で取り組んでいかなければならない問題であると思えます。人口という切り口でいった場合、当然それだけの観光客にお

越しいただき、施設で働く従業員の方が、いかに町内に住んでいただくということに尽きてしまうと思うのですが、箱根という枠組みで考えれば実際に小田原から通ってきていると、ただし、県西地区ということでも考えた時に、2市8町での連携ですとか、トータルで見れば、解決できる問題もあるのではないかと思います。地区の問題は地区の問題としてありますが、日本全体の問題として少子化という大きな共通な問題もあり、そのあたりをどう整理して、最終的に総合戦略にもってくるのか、私自身がうまく整理ができていないところです。人口ですといかに住んでもらうしかないのです、今まで以上に観光業を主要産業として振興に力を入れていくとか、地域との連携などが必要になると思います。相模原市などは早くから合併しているので、一つで考えていける。そのあたりのところが錯綜していくかもしれない。

座長

実際問題、理想を言えば地域連携、付近の市町村で連携していることではあるのですが、行政の壁というのがあるので、やはり町ごとにそれぞれ方向性を決めて国に報告しなければならないので、難しいところもあると思いますが、それも考えながらやっていければいいかなと思います。

委員

皆さんのお話を伺いながら、個人的なこと、従業員として、いろいろ感じる場所があったのですが、働く側として感じる場所は、弊社に関しては箱根に4つ、保養所を入れると6つの事業所があり、その中で700人の従業員がいる状況です。その中で独身の従業員がたくさんいます。寮も完備されていて、基本的には入社をすると全員寮に入るとというのが就業規則にあるので、一時的に箱根町の人口が増えていると思う。寮生がキャリアを積んで考えることは、寮を出たい、一人暮らしをしたい、また、結婚を機に寮を出るということで、その寮生が選択肢として選ぶのは、ほぼ小田原ということになります。なぜそうなるのかというと、先ほど皆さまがおっしゃられていたような利便性であったり、医療的な部分であったり、将来家庭を持って生活する上で箱根町が育児にしても、生活環境にしても、現状、生活をしていく中で現実性を感じないということがあります。また、感情的な部分として、働く場所としてのイメージが強いです。工業地帯ということではないですが、町全体として観光業をやっていて、どこも旅館やホテルで働く人が箱根の人口を多く占めており、自分たちが居住する空間としては、少し離れたところにと考える

人、個人主義の若い人たちの感覚だと思います。

個人的には、私自身が幼少期を箱根で過ごしており、宮ノ下で住んでいたのですが、すごくいい思い出しか残っていません。当時の箱根は、時代がそうだったのかもしれませんが、しっかりしたコミュニティがあり、下は幼稚園から上は高校生まで子どもたちが集まって遊んだりお互い面倒見たり、周辺の地域の親御さんがまとめて面倒をみるというコミュニティがありました。それがあつたがゆえに、私の両親もそうですが、周りの人たちも旅館等で働く、どうしても時間が不規則になってしまうので、お互いに面倒見合うことで遅くまで仕事ができるという安心感がありました。子ども同士でお風呂に入ったり、いろいろ過ごしたりと、その間親は仕事に行っていてという状況でした。今の時代にそれがいいかという問題もあるが、育児や託児のことは今働く、特に女性スタッフからはよく聞く意見ではありますので、観光業が盛んなところとしてはもう少し多くしてもらおうと感じます。

座長

働く場としてはいいが、生活者として、生活する場所としてはどうかということになるのでしょうか。そのギャップをどうしていくかということですね。

委員

箱根に引っ越してきて最初に感じたことは、箱根って住めるんだ、人住んでいるんだ、ということでした。以前に住んでいたところと比較して圧倒的に不便ですし、生活してみても感じることは、本当に不便だなということです。というのは、何かをしようと思うと必ず町外に行かなければならず、私は車を運転しないので、移動はバスになってしまうということ、御殿場、小田原に行ってもバスの時間を気にしなければならないということも不便だなと感じます。ただ、不便の中でも都会に無い自然、素敵な環境を味わえるというのもあるので、生活する人が楽しめる場所、習い事であったりとか、お休みの日に皆は何をしているのかと思うのですが、そういったことを町内の今ある施設でできれば、不便な中でも楽しめる環境をつくっていけば、生活スタイルとして楽しんでいけると感じます。

出産のことに関しては、出産をするにあたって、病院はどこに行くのか、生まれるとあって小田原、御殿場まで行くのか、間に合わなかったらどうするのか、とってしまうし、その後、子どもが成長するにあたっては、学校は小田原に行

- くのかとか、不安な要素が目立ってしまう。もう少し観光ばかりでなく、住みやすい環境を整えてPRしていければいいと思います。
- 座長 おっしゃるとおりで、10～20歳代が東京圏へ出て行ってしまうと、若者は東京圏の方が魅力的ですね。それよりも素晴らしいものがありますよということをやっていないと、現状は打破できないのかなと思います。
- 委員 皆さんありがとうございます。皆さんのお話を伺って、何か言い足りないようなことがありましたらお願いします。
- 委員 子育て、女性、結婚して子どもが生まれる。でも今、女性は働きなさいという方向に向かっている中で、生まれた子どもを何歳から預けられるのか、何時間預けられるのかなということ、子どもが病気になったらどうするのか、仕事に支障が出てしまう、現実的に掘り下げていかないと、子どもを産めないです。仕事をしながら子どもを育てるということが、いかに大変かということをもっと掘り下げていかないと、今やっていることは中途半端です。少ないお子さんを見ている人が5人くらいいなければいけない現実があります。子どもが少ない中で、経費がいっぱいかかってしまうことをどう分担していくのか。高齢者が多い中で、子どもを育てたことがある経験者がちょっと傍で見てもらうというようなことがあれば、精神的にも助かるのではないかとということが確実にあれば、もう少し安心して子育てできるのではないかと思います。
- 座長 そこまで具体的に今回の策定作業に入るのか疑問もありますが、実際問題として、生活する人としては、細かい具体的なことが解決していかないと、前に進んでいかないとということが実感としてある訳ですね。ありがとうございます。事務局の方から、欠席なさっている方の意見を承っているということ。
- 副課長 本日欠席の方より意見としてペーパー一枚にまとめていただきましたので、お配りさせていただきました。
- 座長 ほかにご意見等よろしいですか。第1回目のメニューとしては以上になりますが、皆さんよろしいでしょうか。
- オ その他
- 座長 それでは議題（5）「その他」について、事務局から願

- いします。
- 事務局** 先ほどの子育てのことですが、昨年度、新しい法律に基づいて、子ども子育て支援事業計画というのができていますが、そのメニューの中で、0歳児保育もありますし、病児保育も病後保育もあります。ただその条件が町にあるかどうかということで、実際に町でやっているかどうかは別にして、それをやっていかなければならないことは国も市町村も承知をしているということであろうと思います。それから人口減少の話では、一つは人口減少抑制戦略というものがあるのですが、今回は人口減少社会適応戦略というものもあり、その2つが一緒になる必要があると思っていますので、減っていくことに適応していくのと、減っていくことを止めること、この2つで考えていって、他の計画も見ていきながら、効率よく進められればと思います。
- 座長** 確かに、待機児童の問題とか、医療費助成の対象範囲とか、各市町村の行政ごとに対応がバラバラで、一生懸命頑張っているからこっちに住んでくださいというようなことをやっていて、横浜市が待機児童ゼロになったからこっちも頑張らないといけないというようなことをやっていると、そのあたりを箱根町としてもどうしていくのかを、具体的に念頭に入れないとこういう話もできづらいのかなと思います。ありがとうございました。
- では事務局からお願いします。
- 副課長** 本日の会議録を近日中に作成し、皆さんに確認いただきます。メールや郵便で送りますのでよろしくお願いします。
- 次回の会議は9月の上旬～中旬の開催を予定しております。その時までには人口ビジョン案と総合戦略のたたき台をお示しできればと考えています。
- 座長** それでは本日の会議これで終了します。ありがとうございました。